

# 統計を利用する立場から

茨城大学教授 高橋 栄

近頃はコンピューターの発達による統計処理技術の著しい進歩によつて、迅速で正確な結果が出せるようになった。しかし、それにインプットするデータの正否が、その統計の信頼度を高めもし低くもするもので、ここにデータの正確さが要求されるわけがある。

統計は利用されてはじめて生きてくる。急激な変化をしつつある現代社会、情報化社会においては、あらゆる場合に量的に質的に、精に粗に、広くまたは狭く、深くまたは浅く、統計資料が利用されている。新聞に雑誌に、テレビにラジオに、その他の刊行物にと視聴覚を通して思考判断の資料を、情報を提供している。統計なくしては現代社会の生活はなし得ないといつても過言ではなからう。

多忙な現代の利用者にとつては、そのまま利用できるような統計がつくつてあればまことに好都合であるが、なかには何回も操作を加えなければ利用できないものもある。しかし、これは多様化した利用者側の望む方が無理かも知れない。ある目的をもつて調査し統計をつくるのであるから、それ以外に利用する場合は利用者自身の目的にあうように処理しなおさねばならないことはいうまでもない。

一寸した一枚の統計表でもそのうらの労苦はたいしたものであることを思い感謝の気持ちをもつべきである。実際に調査し整理して統計表をつくつた経験のないものには、その労苦はわからないかも知れないが、一度でもそれを経験したものはわずかの紙片の統計表でも大切に吟味し取扱うものである。

ある種の統計のできあがるのを待つてすぐに利用するものもあるが、何年も経過してから利用するものもあるから、資料として重要であり完全に保管すべきである。

私が約20年ほど前、霞ヶ浦の漁村研究をしていた頃、湖岸のある村を調査したが、壬申戸籍が辛うじて保存されていて、家族構成の統計を出すことができ、それによつて多子家庭であることがわかり、それを契機にその村の当時の社会的、経済的、宗教的背景などを明らかにす

ることができた。70~80年後にそのような資料を誰が利用すると思つたであろうか。

最近の統計は統計学と技術の進歩、調査機関の整備拡充によつて、高度化精密化してきたので広い分野で利用でき、量や質までもある程度表現できるようになった。

人間の社会では入学、就職、結婚などの場合、履歴書と写真をつけることを通例とする。その何れか一つを欠いてもその人物を十分に表現できない。ある人の履歴書だけを見せられて、この人と結婚しませんかといわれても、その記載事項だけはわかるが、容ぼうや体格などがどんなであるか不明では、不安でもあり何れとも判断しかねるわけである。また反対に写真だけを見せられたとしても、容ぼうや体格などはわかつても、どこの誰の子で何才、どんな経歴の持主であるかが不明だとしたら、前と同じように判断しかねることになる。

これを県にとえれば、茨城県には県の写真と履歴書があるということになる。県の写真とは県の現状を示すもので地理的なものであり、履歴書とは県の過去の経歴を示すもので歴史的なものである。今日の茨城県の写真はやがて県の履歴書の中に追加されて行くことであろう。

このようにして年ごとの写真が追加されて県の履歴書という長い歴史と伝統が形成されてきたし、将来もまた永遠にそれが続くことであろう。県の写真と履歴書によつて私達は県の現状を認識し過去を回想することができる。しかも統計がこれらの役目のある程度果たしてくれる。

明治100年とは茨城県が誕生して以来、毎年の写真を積み重ねて100年の履歴書ができたことを意味する。統計によつて過去100年の県の履歴書、茨城県勢の推移を回顧し、明日への発展を期待するものである。このような役目を果たせるのも統計の力であり、魅力である。茨城県民たるものは本県のよりよい写真と履歴書をつくるよう努力すべきであろう。

# 全国統計大会に参加して

石岡市役所統計係長 小 松 さ く

松山市で開かれた第22回全国統計大会は、開催地にふさわしくなごやかなうちにもいきいきと張りのあるふんい気をもつて終始した。

大会長その他のあいさつに続いての大内兵衛先生のお話は、こればかりは文字では伝えられない何とも軽妙洒脱、味わいのあるもので、全国から前夜、あるいはその朝この会場にはせ参じた参会者全員の胸に温かくしみ、仄々と満たされた感じのうちに全員の心を一つに、統計一家にとけこましてしまったのである。

そうして統計功労者の表彰、ただひたすらに利用されるのを待つことを宿命とする統計マンにとつて、この表彰は自分の親兄弟姉妹の表彰されるに等しいうれしいことである。大内賞その他の諸先生、先輩に続いての統計グラフ全国コンクール入選者の表彰がまた良かった。ことに特選の小学1年生の中谷司ちやんが、その小さな手にあまる賞状と賞品にとまどつた風情で、それを渡してくれたおじさんへのお辞儀を忘れて席にもどる途中で、ふつと思出したように誰にするともなくしたお辞儀は、会場に温かな笑いの渦を巻き起こして、統計一家の末つ子表彰の感があつた。

議事は「統計の近代化と統計調査員制度の確立」。香川県統計課長のきびきびした議案説明に続いて県、市町

村、調査員の三つの立場からの意見発表は、「そうだ。」と共感させ、「そうでなければ。」と願わせ、「そうあらねば。そうあらせねばならぬ。」という決意を全員の胸にいだかせた。

午後のパネルディスカッションのテーマは「指定統計と地域行政」。各パネラー5分ずつという限られた時間に、よくもあれだけ意をつくせたとと思う。記念講演は「統計転換期の諸問題」で、伊大知教授は、この日語られ論じられ、投げかけられたすべてのものを、しつかりと受けとめ、実にゆたかに締めくくられた。統計界にその転換期を要請したものは、統計界にこそ内在したとその要因を鋭くつき、これを転換するには調査機能の早急な強化、データバンクの展開、地方機能の改訂等にあると三つの目標について語り、意欲を燃して柔軟な頭で考え、自らの統計を自らの手で創りあげる熱意こそ、この転換期に最も必要なものであると、強く深く全員の心に熱い釘を打ちこまれた。

深い感動のうちに閉会の幕が降り、再び静かに幕が上がつたとき「ふくしまであいましょう」の文字が大きく写し出され同時に「螢の光」の曲が、この日の感動の余韻とともに広い会場を満たしたのであつた。

## 統計ニュース

### ◇ 1月の主な行事 ◇

- 4日 御用始め
- 17~19日 茨城県消費者物価調査(調査品目出回り状況調査)
- 18日 商工統計解析研究会
- 末日 小売物価調査関係プロ会議

## ■ 昭和46年版 茨城県勢要覧 ■

予約受付中です

さらに内容が充実しました。お申込みはお早めに！

1 定 価

450円

2 刊行予定

1月中

3 申込み先

水戸市三の丸1-5-38

茨城県統計課内

茨城県統計協会

TEL 0292 (21) 5505